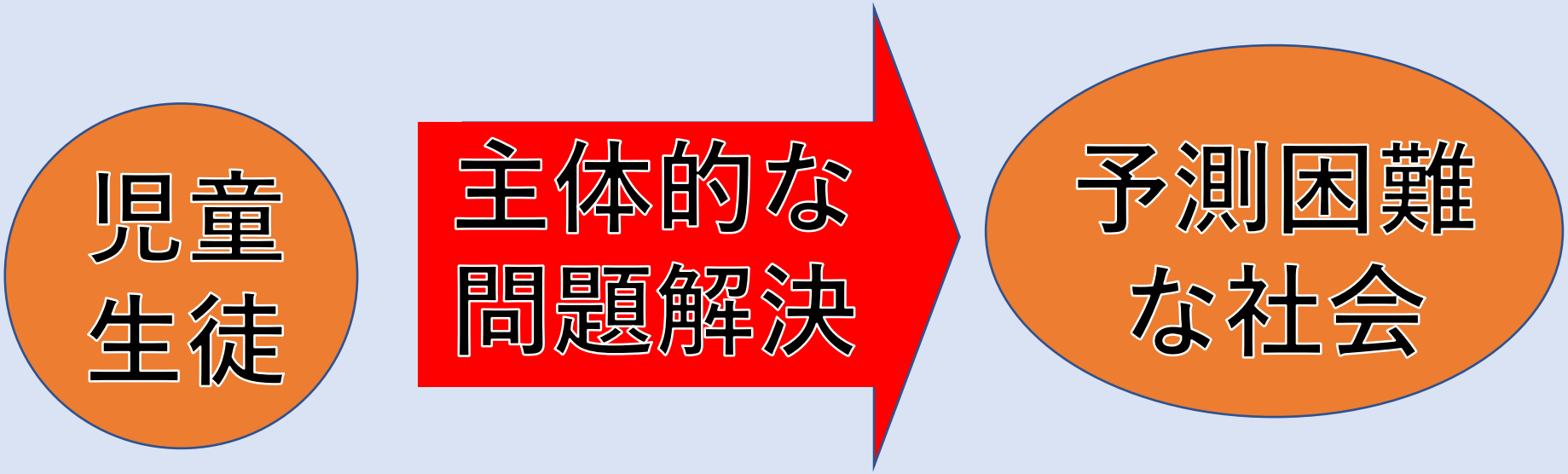
令和６年度（2024年度）
教育研究所設置委員会
小中一貫教育施策推進委員会
学力向上推進委員会
【外国語】

研究主題

義務教育９年間を通した
主体的に活動する児童・生徒の育成

～既習事項や言語活動を定着させるための
多様な**帯活動**を通して～

研究主題　設定の背景



研究の柱

① **小学校と中学校**での**外国語学習**に**つながり**をもたせる。

② **学習内容**の**定着**につなげる。

③ **どの学校でも取り入れやすい活動**にする。
（児童・生徒の実態、発達段階に応じて活動を取り入れたい。）

④ **非認知能力の醸成**を通して**主体的な活動**につなげる。

なぜ非認知能力か

育成すべき資質・能力の３つの柱

知識
及び
技能

思考力、
判断力、
表現力等

学びに
向かう力

人間性等

なぜ帯活動か

毎回の授業で継続的・スパイラル的に活動する



仮説

義務教育９年間における非認知能力の醸成につながる帯活動を系統的に活用することで、主体的に学ぶ児童・生徒の育成につながる。

非認知能力の分類

自分と向き合う力

自制心、忍耐力、回復力（レジリエンス）など

自分を高める力

意欲・向上心、自信・自尊感情、楽観性など

他者とつながる力

共感性、協調性・社交性、コミュニケーション能力など

研究の方法

① 各学校で外国語学習に関する事前アンケート調査の実施とその考察。　（８月～10月）

② 非認知能力を育む帯活動を授業にて実施。
（10月～12月）

③ 各学校で外国語学習に関する事後アンケート調査の実施とその考察。　（12月）

①各学校で外国語学習に関する
事前アンケート調査の実施とその
考察　　（８月～10月）

事前調査内容　（小学校　３校）

① 英語の授業や活動の時間は楽しいですか。
② あなたは英語が好きですか。
③ 英語の授業をどのくらい理解していますか。
④ 学校での英語の授業や活動で、もっとやってみたいと思うことは何ですか。
⑤ 努力・根気　→　自分と向き合う力
⑥ 積極性　→　自分を高める力
⑦ 反応する力　→　他者とつながる力
⑧ 協力して学ぶ気もち　→　他者とつながる力　など

事前調査結果　（小学校　３校）

＜意欲について＞

・英語の授業や活動の時間は楽しいですか。
→肯定的な回答 86.3%

・あなたは英語が好きですか。
→肯定的な回答 68.5%

・英語の授業をどのくらい理解していますか。
→肯定的な回答 76.6%

事前調査結果　（小学校　３校）

＜コミュニケーションについて＞

・学校の英語の授業を通じて、どんなことを思うようになりましたか。

　→英語が話せたらかっこいい。　53.7%

　→外国に旅行に行ってみたい。　54.4%

・英語の授業や活動で、もっとやってみたいことは何ですか。

　→友だちと話し合ったり協力する活動　40.0%

考察　　（小学校　３校）

①多くの生徒が外国語の授業が好きで、楽しんで参加している。

②多くの生徒が外国語の能力を必要と思い、伸ばしたいと思っている。

③多数の生徒が、英語を話せることに対して、好印象をもっている。

考察　　（小学校　３校）

④協力して学ぶ気もちはあるが、自ら進んで積極的に関わることに抵抗を感じる児童がいる。

事前調査内容　（中学校　２校）

① 英語は好きですか。
② 英語は得意ですか。
③ あなたが「力がついたな！」と思う活動は何ですか。
④ ４技能５領域のそれぞれの自信の度合いを書きなさい。
⑤ 努力・根気　→　自分と向き合う力
⑥ 積極性　→　自分を高める力
⑦ 発想力・アイディア　→　自分を高める力
⑧ 協働する気持ち　→　相手とつながる力
⑨ 反応する力　→　相手とつながる力　など

事前調査結果　（中学校　２校）

＜意欲について＞

・英語は好きですか。　→肯定的な回答 54.1%

・英語は得意ですか。　→肯定的な回答 34.1%

・それぞれの自信の割合

話すこと（やりとり）	47.1%
話すこと（発表）	40.4%
聞くこと	53.4%
読むこと	50.3%
書くこと	34.0%

事前調査結果　（中学校　２校）

＜非認知能力について＞

努力・根気	向き合う力	61%
積極性	高める力	52%
発想力・アイディア	高める力	63%
協働する気持ち	つながる力	74%
反応する力	つながる力	57%

考察　　（中学校　２校）

①小学校と比べて英語を好きだと思う人数が減っている。
②英語を不得意に感じている生徒が多い。特に「話すこと（発表）」や「書くこと」といった発信技能に対する自信の割合が低い。
③多くの生徒が、会話よりも読み書きやテストの点数に対して不安を抱いている。
④歌などの活動に興味を持っているが、実際に行うことに抵抗を感じる生徒がいる。

② 非認知能力を育む帯活動を
授業にて実施　（10月～12月）

実践　①

研究授業【中学校】

令和６年（2024年）９月12日（木）
八王子市立椚田中学校　第３学年

単元名：Lesson４“The World’s Manga and Anime”

≪本時の目標≫
SNSを通じて、友人やALTに自分の考えや感想を伝えるために、日本の漫画やアニメについて書かれた英文を読み、自分で考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら書くことができる。

【授業構成】

25分	帯活動（３～５種）
23分	新しい題材
２分	振り返り

【本時の帯活動】25分

⓪Casual Talk

①BINGO

②Song

③Keyword Activity

④Reading Practice(Textbook)

⑤Writing Practice(SNS Type)

⓪Casual Talk

話すこと（やりとり）

“What restaurant do you recommend for Mr Kawabe’s family?“







高める力・向き合う力・つながる力

①BINGO

語彙







高める力・つながる力

②Song “September”

聞くこと・文法・語彙





高める力・つながる力

③Keyword Activity

語彙



つながる力





④Reading Practice(Textbook)

読むこと・文法・語彙







高める力・つながる力

⑤Writing Practice(SNS Type)

書くこと・文法・語彙

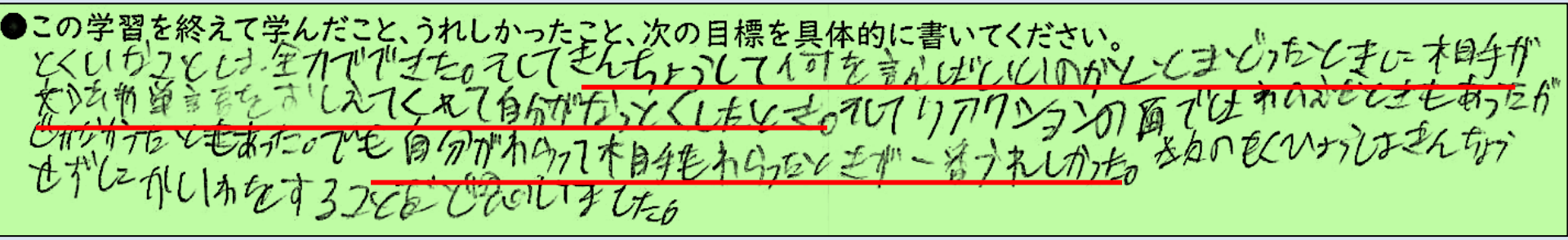




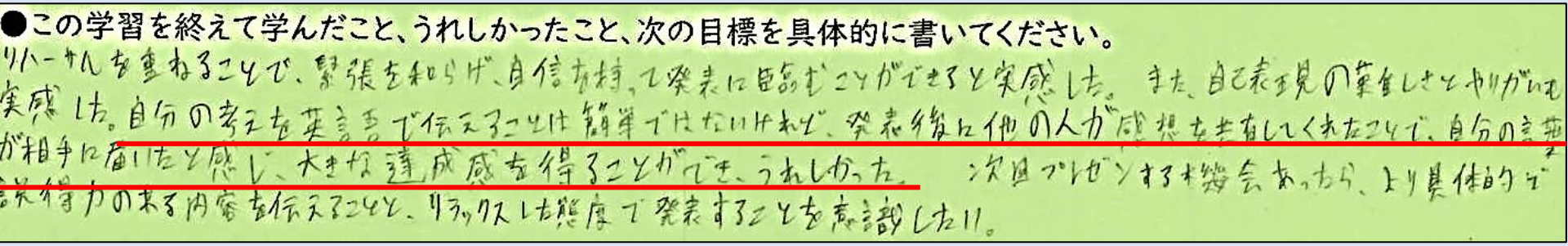


高める力・向き合う力・つながる力

【生徒の振り返り】

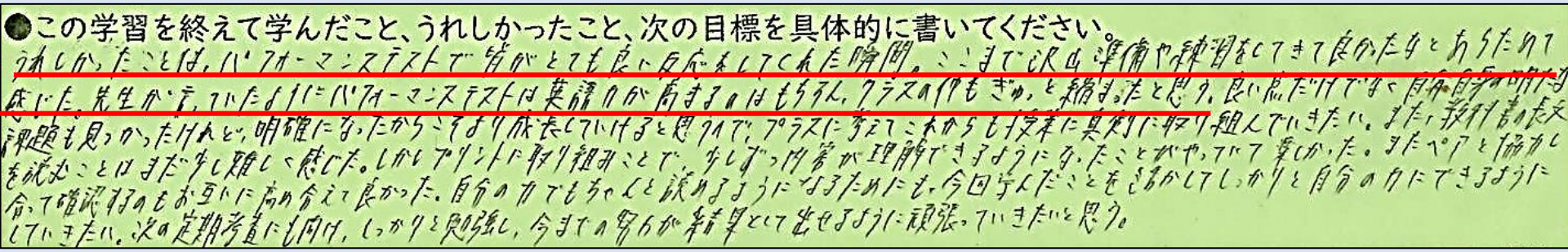

●この学習を終えて学んだこと、うれしかったこと、次の目標を具体的に書いてください。
とくしゅうのことは全力でできた。そしてきんちょうして何を言えばいいのかとまどったときに相手が文法や単語を教えてくれて自分がなっとくしたとき。そしてリアクションの面ではれいぎとしてもあったがしかたもあった。でも自分がわかって相手もわからないとずーっとうれしかった。あなのもくひょうをきんちょうしないようにすることでした。

「緊張して何を言えばいいのかとまどったときに、相手が文法や単語を押してくれて自分が納得したときが嬉しかった。」

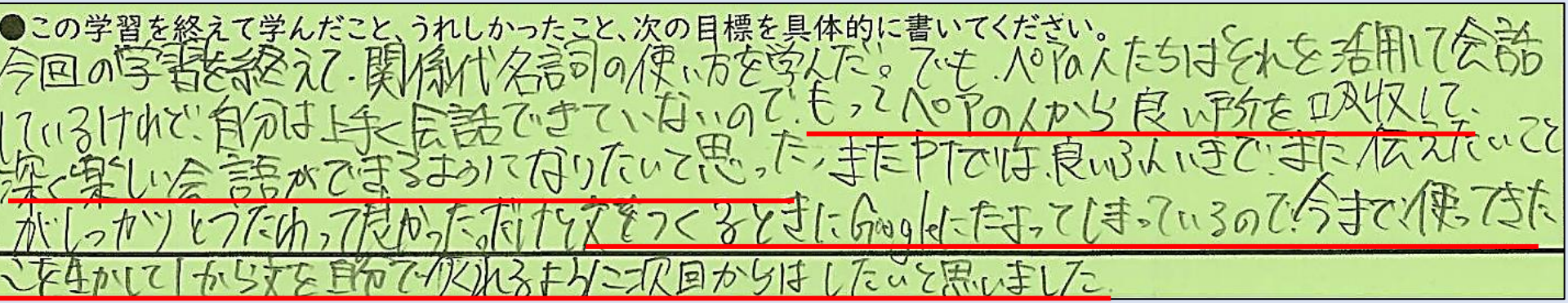

●この学習を終えて学んだこと、うれしかったこと、次の目標を具体的に書いてください。
リハーサルを重ねることで、緊張を和らげ、自信を持って発表に臨むことができると実感した。また、自己表現の楽しさとやりがいも実感した。自分の考えを英語で伝えることは簡単ではないけれど、発表後に他の人が感想を共有してくれたことで、自分の言葉が相手に届いたと感じ、大きな達成感を得ることができ、うれしかった。次回プレゼンする機会があったら、より具体的で説得力のある内容を伝えることと、リラックスした態度で発表することを意識したい。

「発表後に他の人が感想を共有してくれたことで、自分の言葉が相手に届いたと感じ、大きな達成感を得ることができ、嬉しかった。」

【生徒の振り返り】


●この学習を終えて学んだこと、うれしかったこと、次の目標を具体的に書いてください。
うれしかったことは、パフォーマンステストで皆がとても良い反応をしてくれた瞬間。ここまで沢山準備や練習をしてきて良かったなとあらためて感じた。先生がおっしゃっていたようにパフォーマンステストは英語の力が高まるのはもちろん、クラスの仲もぎゅっと締まったと思う。良い点だけでなく自分の明らかな課題も見つかったけれど、明確になったからこそより成長していけると思うので、プラスに考えてこれからも授業に真剣に取り組んでいきたい。また、我々1年の長文を読むことはまだ少し難しく感じた。しかしプリントに取り組むことで、少しずつ内容が理解できるようになったことがやって楽しかった。またペアと協力し合って確認するのもお互いに高め合えて良かった。自分の力でもちゃんと訳せるようになるためにも、今回学んだことをふかしてしっかりと自分の力でできるようにしていきたい。次の定期考査に向け、しっかりと勉強し、今までの努力が結果として出せるように頑張っていきたいと思う。

「嬉しかったことは、パフォーマンステストで皆がとても良い反応をしてくれた瞬間。ここまでたくさん準備や練習をしてきて良かったなとあらためて感じた。」


●この学習を終えて学んだこと、うれしかったこと、次の目標を具体的に書いてください。
今回の学習を終えて、関係代名詞の使い方を学んだ。でも、ペアの人たちはそれを活用して会話しているけれど、自分は上手く会話できていないので、もっとペアの人から良い所を吸収して、深く楽しい会話ができるようになりたいと思った。またPTでは、良いふんいきで話したいことがしっかりとつたわって良かったが、短い文をつくるときにGoogleにたよってしまっているので、今まで使ってきた先生がいから文を自分で作れるように次回からはしたいと思いました。

「もっとペアから良い所を吸収して、深く楽しい会話ができるようになりたいと思った。」

実践　②

研究授業【小学校】

令和６年（2024年）11月12日（火）
いずみの森義務教育学校　第５学年

単元名：　Lesson　５　“She can bake cookies.”
「さまざまな人のできることや
得意なことを伝え合おう。」

≪本時の目標≫
　得意なことを伝えることができる。

【授業構成】

25分	帯活動（４種）
20分	展開
５分	まとめ

【本時の帯活動】　25分

①Greeting
②Small Talk A
③Song
④Small Talk B

①Greeting

How are you?

What day is it?

What’s today’s date?

How’s the weather?



語彙

つながる力

年間を通して、同じ質問を繰り返し、扱っています。

②Small Talk A（ALTと教員）

A:What are you good at？

B: I’m good at piano.
What are you good at?

A:I’m good at basketball.



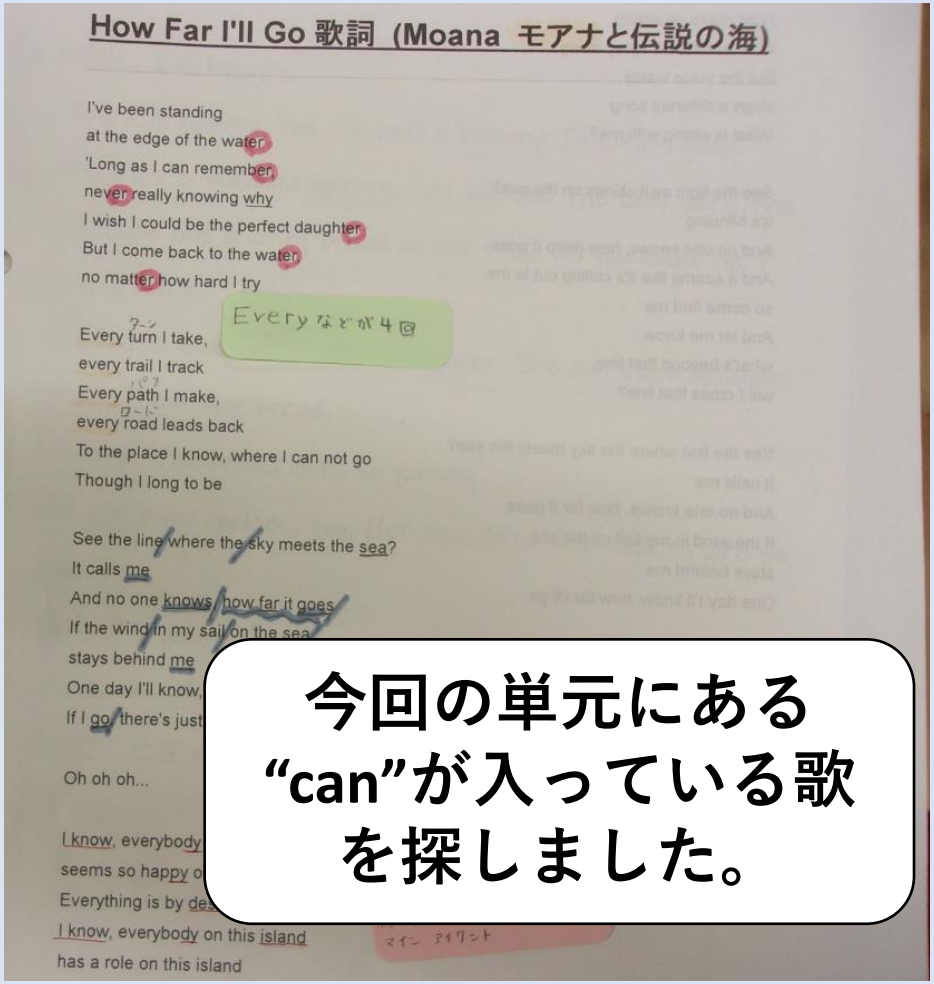
聞くこと
高める力

この授業で学習するフレーズを、
教師とALTが使いながら会話。
児童は、どのような会話か聞く。
教師による説明。

③Song “How Far I’ll Go”



語彙
つながる力



How Far I'll Go 歌詞 (Moana モアナと伝説の海)

I've been standing
at the edge of the water
'Long as I can remember,
never really knowing why
I wish I could be the perfect daughter
But I come back to the water
no matter how hard I try

Every turn I take,
every trail I track
Every path I make,
every road leads back
To the place I know, where I can not go
Though I long to be

See the line where the sky meets the sea?
It calls me
And no one knows how far it goes
If the wind in my sail on the sea
stays behind me
One day I'll know,
If I go there's just

Oh oh oh...

I know, everybody
seems so happy o
Everything is by de
I know, everybody on this island
has a role on this island

今回の単元にある
“can”が入っている歌
を探しました。

④Small Talk B



Can you do this?



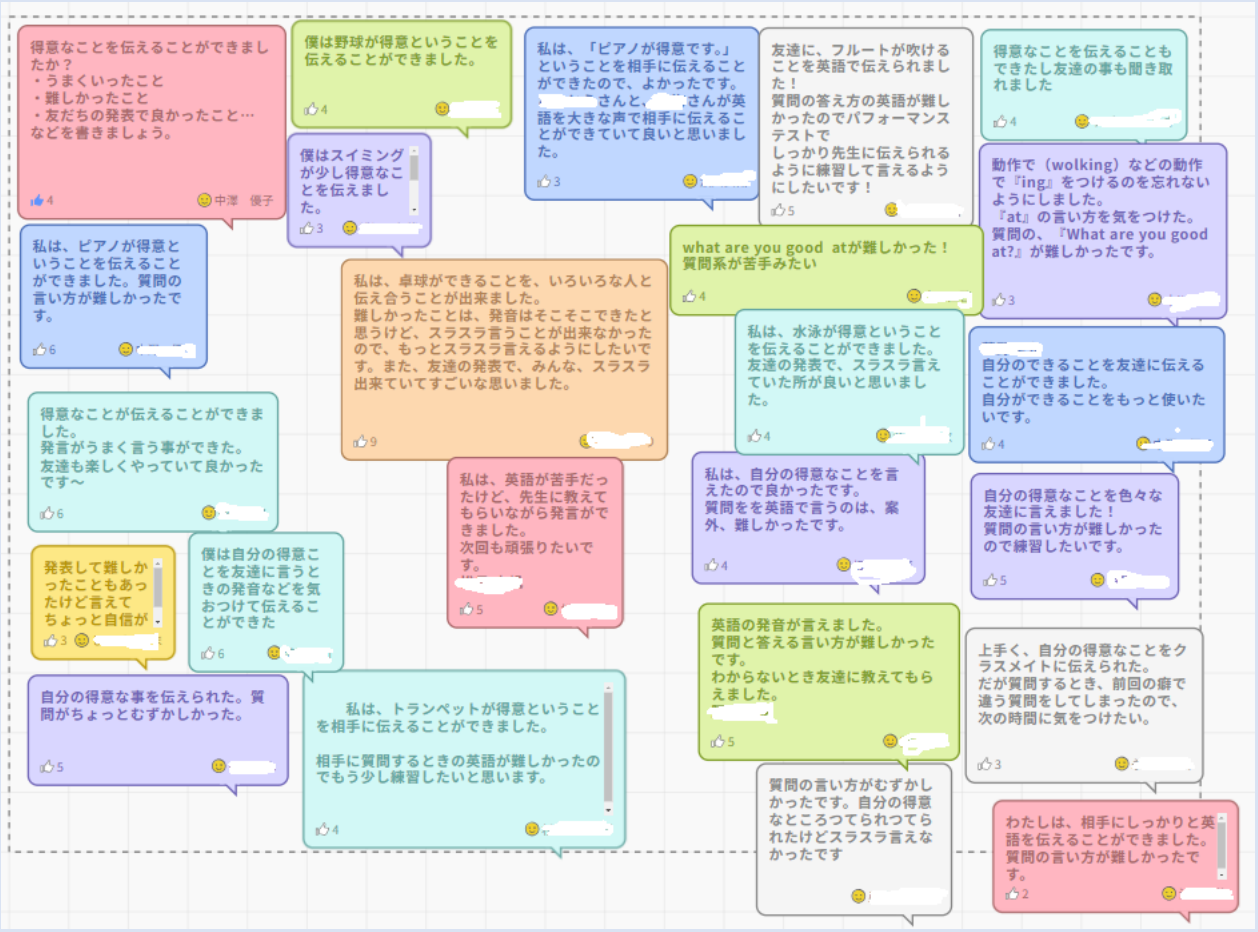
Yes, I can.



“Can you～?”を使った文章を使って、クラスの友だちに尋ね合いました。

話すこと・語彙
高める力・つながる力

【児童の振り返り】



「僕は自分の得意なことを友だちに言う時の発音などを気を付けて伝えることができた。」Wさん

「私は、英語が苦手だったけど、先生に教えてもらいながら発音ができました。」Mさん

「僕は、野球が得意ということを伝えることができました。」Mさん

【児童の変容】 事後アンケートから

- 「授業の中で、やって良かったと思う活動は何ですか。」
  →最多　…　歌（モアナ “How Far I’ll Go”）80.８％
  　次点　…　チャンツ（職業の名前）57.７％

- 「Lesson 5 “She can bake cookies.”の学習で会話が得意になったと思う。」
  →肯定的な意見　84.６％

③ 各学校で外国語学習に関する事後アンケート調査の実施とその考察（12月）

事後調査結果　（小学校　１校）

＜意欲について＞

・英語は好きですか。78.0%→89.3%

・自信の割合

話すこと（やりとり）78.1%（9.4ポイント↑）
話すこと（発表）　53.5%（9.8ポイント↑）
読むこと　60.7%（7.6ポイント↑）
書くこと　67.8%（15.6ポイント↑）

＜非認知能力について＞

努力・根気　向き合う力　71.0%（9ポイント↑）

反応する力　つながる力　79.0%（1ポイント↑）

考察　　（小学校　1校）

①英語を好きだと思う児童が増えた。
②帯活動を充実させたことで、児童が苦手とする会話が得意になったと感じる児童が増えた。
③英語に向き合う力が向上し、「書くこと」への自信も高まった。

事後調査結果　（中学校　２校）

＜意欲について＞

・英語は好きですか。　→肯定的な回答 64.4%（10.3%↑）

・英語は得意ですか。　→肯定的な回答 44.6%（10.5%↑）

・自信の割合

話すこと（やりとり）	57.2%	（10.1%↑）
話すこと（発表）	46.7%	（6.3%↑）
聞くこと	60.4%	（7.0%↑）
読むこと	55.4%	（5.1%↑）
書くこと	45.2%	（12.2%↑）

事後調査結果　（中学校　２校）

＜非認知能力について＞

努力・根気	向き合う力	70%（９ポイント↑）
積極性	高める力	65%（13ポイント↑）
発想力・アイディア	高める力	71%（８ポイント↑）
協働する気持ち	つながる力	81%（７ポイント↑）
反応する力	つながる力	72%（15ポイント↑）

考察　　（中学校　２校）

①英語を好きだと思う生徒が増えた。

②「話すこと（発表）」や「書くこと」といった発信技能が苦手な生徒は、ペアやグループで学び合うことで、その抵抗感を和らげることができるようになった。

③学習内容の定着を図ることで、テストに対する不安感を和らげることができるようになった。ペアで学び合う習慣が身に付き、自発的に相談するようになった。

④集団の雰囲気が良くなり、意欲的に歌ったり活動する生徒が増えた。

成果と課題

- 非認知能力を育む帯活動を系統的に活用することで、児童・生徒の「学びに向かう力・人間性等」の育成につながることが予想される。
- 小中間での系統的な活動を共有することができた。
- 帯活動の性質上、短期間での成果は得づらい。中長期的な視野で設定し、児童・生徒の状況を的確に把握することが必要である。
- 小学校における外国語活動の授業時数を考えると、中学校のような帯活動を行う時間を十分に確保することが難しい。学習活動の精選が課題である。

御静聴ありがとうございました